

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。

**注意**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。



- 取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>

**注意**

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 柱の施工では、「アーキシャット 一柱セッター (A526)」の取付説明書を一緒にお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- 梱包明細書で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

<施工上のご注意>

⚠ 注意

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・ 作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、耳、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・ 作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・ 器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・ 作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・ 作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分確認し、健康管理を実施してください。
 - ・ 万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け固定してください。
- 取付説明書の順番通りに組付けてください。製品の強度等、性能を低下させる場合が発生します。
- アルミ製品が亜鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 腐食のおそれのある接着剤や化学製品を使用する場合は、製品と接触しないようにするか、接触する部分を完全に養生してください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は、ボルト、ネジなどにゆりみがないか確認してください。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- 施工終了後は扉の開閉チェックを行ない、不具合がないか確認してください。

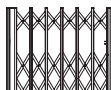
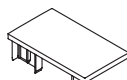
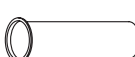
<基礎工事について>

⚠ 注意

- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決まっていますが、現場によっては（堅牢な地盤、軟弱な地盤など）基礎部のコンクリートの量（体積）十分考慮してください。
- 基礎施工寸法の柱埋込み位置は、性能や耐久性、安全上重要ですので必ずお守りください。
- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。
必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、工事中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性でシミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭取ってください。

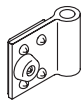
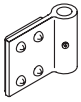
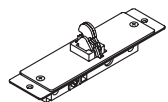
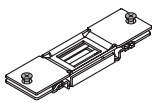
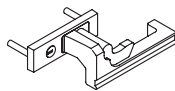
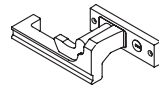
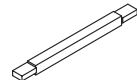
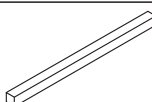
■梱包明細表

【1】 本体

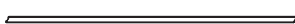
名 称	略 図	員 数			
		S110	S130	S150	S170
本体		1	1	1	1
戸当り框（外）		1	1	1	1
戸当り框（内）		1	1	1	1
移動柱キャップ（上）		1	1	1	1
回転柱キャップ（上）		1	1	1	1
格子キャップ（上）		3	4	5	6
戸当り框キャップ（上）		1	1	1	1
落し棒受けA		2	2	2	2
落し棒受けB		2	2	2	2
注意シール		1	1	1	1
【1-1】φ4×10サラタツピンネジ3種（D=6）		2	2	2	2
【1-2】M5ターンナット		4	4	4	4
【1-3】M5×10トラス小ネジ		6	6	6	6
【1-4】M5×20トラス小ネジ（D=10）		4	4	4	4
【1-5】φ4×16サラタツピンネジ3種（D=6）		1	1	1	1

■梱包明細表

【2】片錠セット

名 称		略 図	員 数
ヒンジ上			1
ヒンジ下			1
鎌錠			1
錠受け			1
ヒンジキャップ			2
作動化粧座	作動外座		1
	作動内座		1
	ロック角芯 (D=50用)		1
	角芯 (D=50用)		1
	鍵		3
【2-1】 M4×12サラ小ネジ (D=6)			2
【2-2】 M4×25サラ小ネジ (D=8)			2
【2-3】 φ4×13ナベドリルネジ			2
取付説明書 (A525)		—	1
取扱説明書 (UA192)		—	1

【3】 カラー材

名 称	略 図	員 数			
		S110	S130	S150	S170
カラー材		12	14	16	18

1. 部品の取付位置

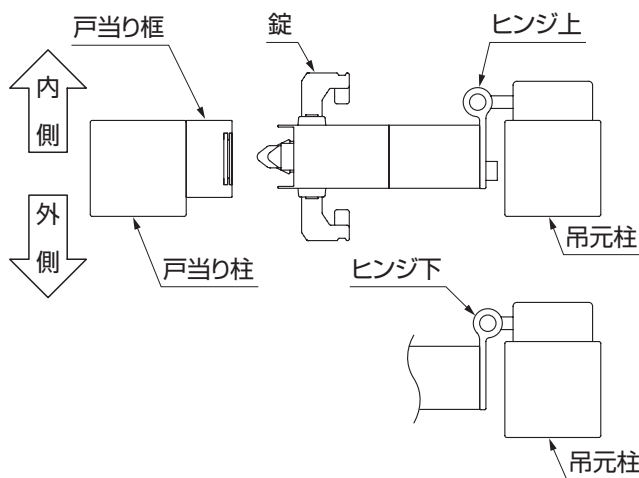


図1-1 右勝手

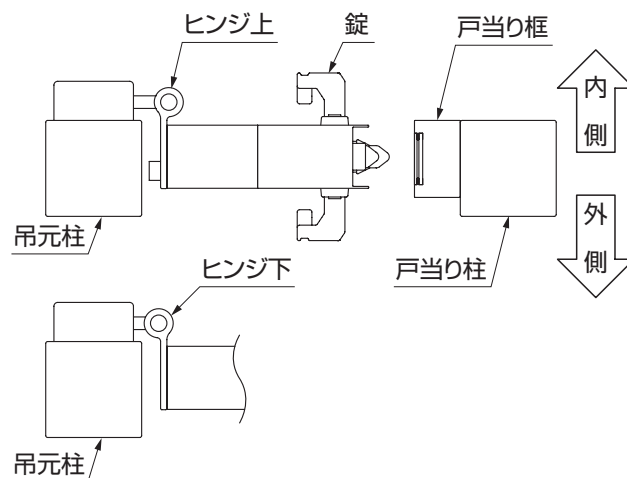
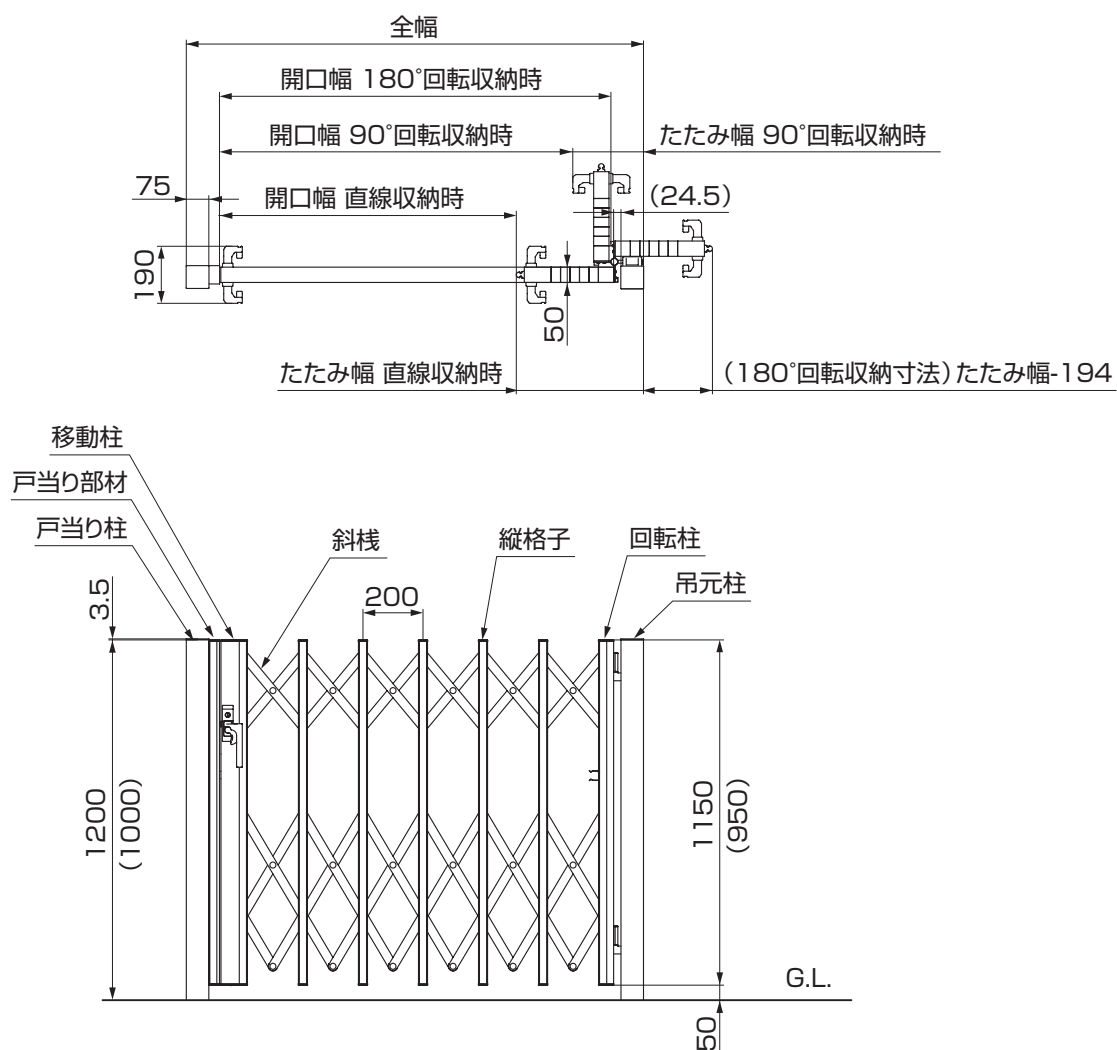


図1-2 左勝手

2. 姿図および各部の名称

※図はH12を表します。() 内寸法はH10を表します。

※基礎施工寸法や柱埋込み位置は、「アーキシャット 一柱セッター」取付説明書 (A526) をお読みください。



3-3 ハンドルの取付け

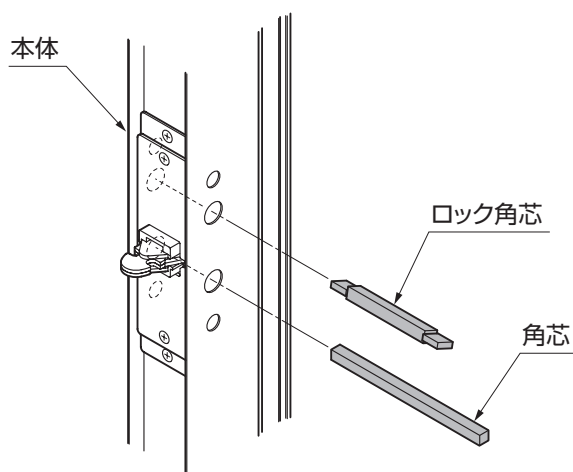


図3-3

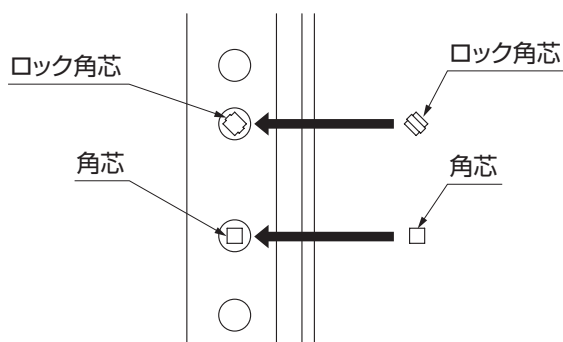


図3-4 ロック角芯・角芯挿入向き

ポイント

- ハンドルは出荷時に仮組みされています。ネジを外してからハンドルの取付け作業をしてください。

①ロック角芯と角芯を本体の穴に通してください。（図3-3、図3-4参照）

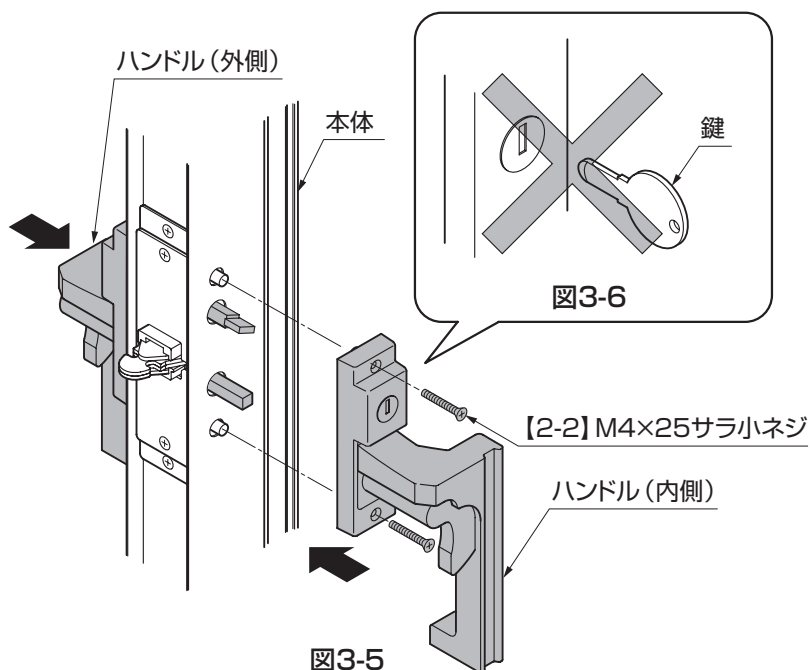


図3-5

②本体にハンドル（外側）のシャフトを挿入して、ハンドル（内側）を【2-2】組付けてください。（図3-5参照）

ポイント

- ハンドルを取付けるとき、シリンダーに鍵を差込んだ状態で取付けないでください。鍵が抜けなくなります。（図3-6参照）
- 鍵の差込みは、ハンドル取付け後に行なってください。（図3-6参照）
- ハンドルを取付けるとき、解除レバー操作時の鎌の操作がスムーズであることを確認した上でネジを本締めしてください。
- 表裏のハンドルの取付けがずれると解除レバーを操作した際に鎌がスムーズに開閉しない場合があります。框に対して真っ直ぐに取付けてください。
- 施錠すると解除レバーが動かなくなります。

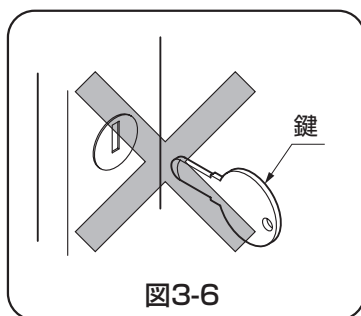


図3-6

4. ヒンジの取付け

※()内寸法はH10を表します。

※図は、外観右吊元の場合です。

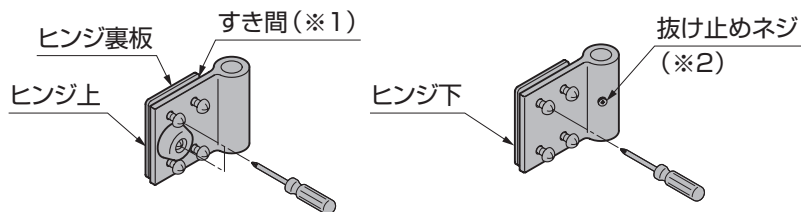


図4-1

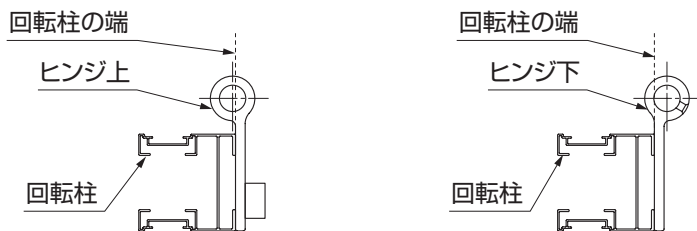


図4-2

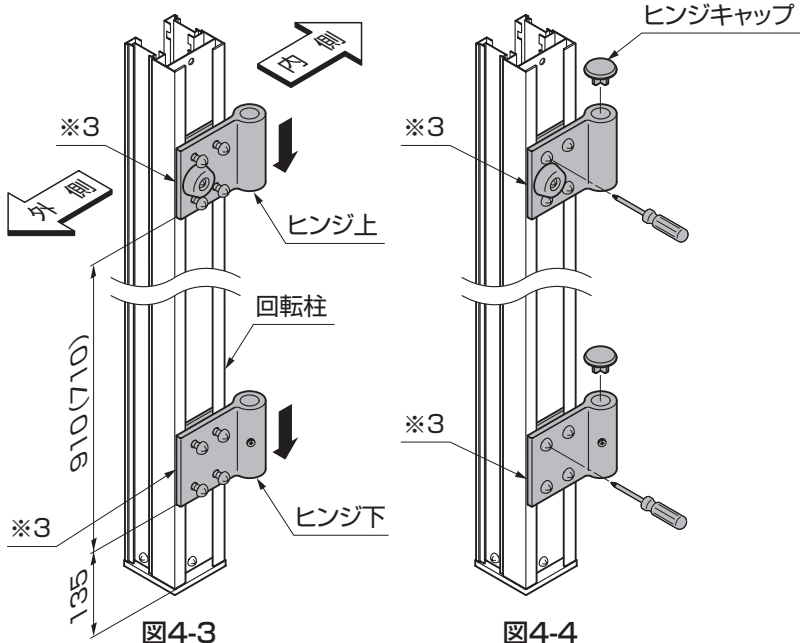


図4-3

図4-4

①ヒンジ上・ヒンジ下それぞれのネジを緩めてヒンジとヒンジ裏板とのすき間(※1)を作ってください。(図4-1参照)

②ヒンジ上・ヒンジ下のすき間を回転柱の溝に上から滑り込ませてください。(図4-2、図4-3参照)

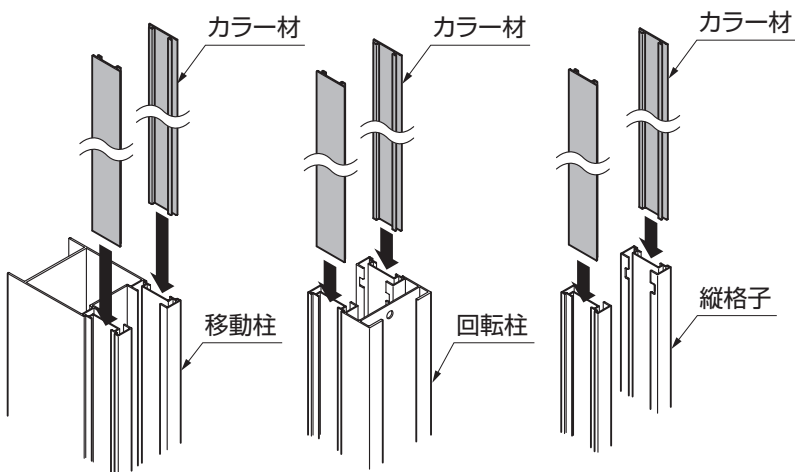
③ヒンジの位置を図4-3に合わせて①で緩めたネジを固定してください。

④ヒンジ上・ヒンジ下にヒンジキャップを取付けてください。

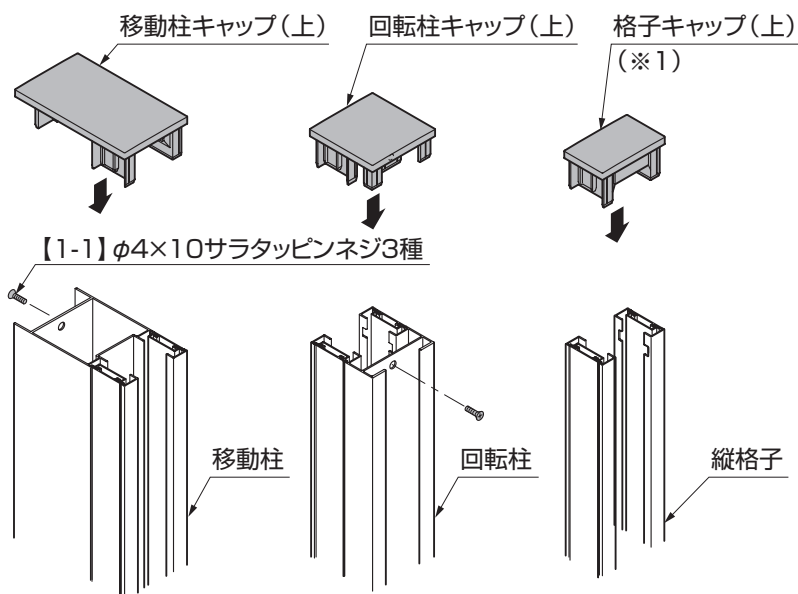
ポイント

- ヒンジにはヒンジ上とヒンジ下の区別があります。抜け止めネジがついているヒンジがヒンジ下です。(※2)
- ヒンジ上とヒンジ下は、取付ける方向が異なります。(図4-2、図4-3参照)
- ヒンジと回転柱の縁を合わせて、まっすぐになるように取付けてください。(※3)

5. カラー材の取付け



①移動柱・回転柱・縦格子それぞれにカラー材を上から差込んでください。

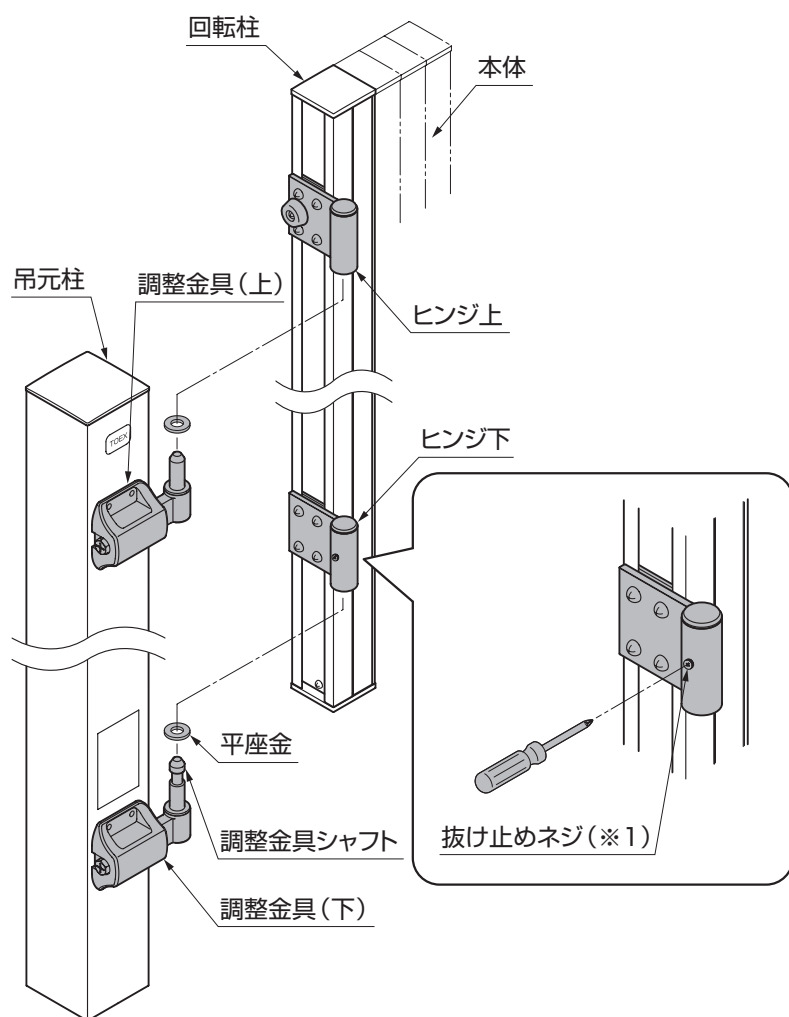


- ②移動柱には移動柱キャップ(上)、回転柱には回転柱キャップ(上)を【1-1】で取付けてください。
- ③縦格子には格子キャップ(上)を上からはめ込んで、取付けてください。

ポイント

- 格子キャップ(上)(※1)は、縦格子の切欠きにしっかりとハマったことを確認してください。

6. 本体の取付け



- ①ヒンジ下の抜け止めネジ(※1)を緩めてください。
- ②「アーキシャット ー柱セットー(A526)」に同梱の平座金を調整金具シャフトに取付けてください。
- ③調整金具シャフトにヒンジ上とヒンジ下を差込んで、本体を吊込んでください。
- ④ヒンジ下の抜け止めネジ(※1)を締めてください。

7. 戸当り框の取付け

7-1 戸当り框（外）の取付け

(1) 柱の加工

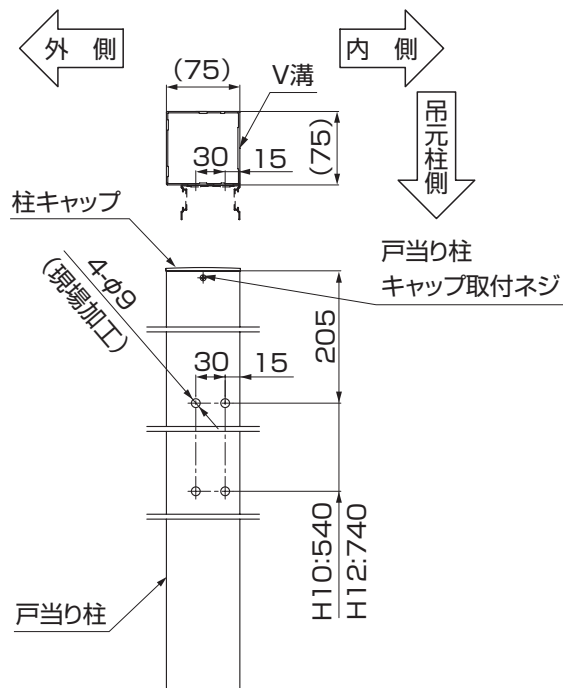


図7-1 外観右吊元の場合

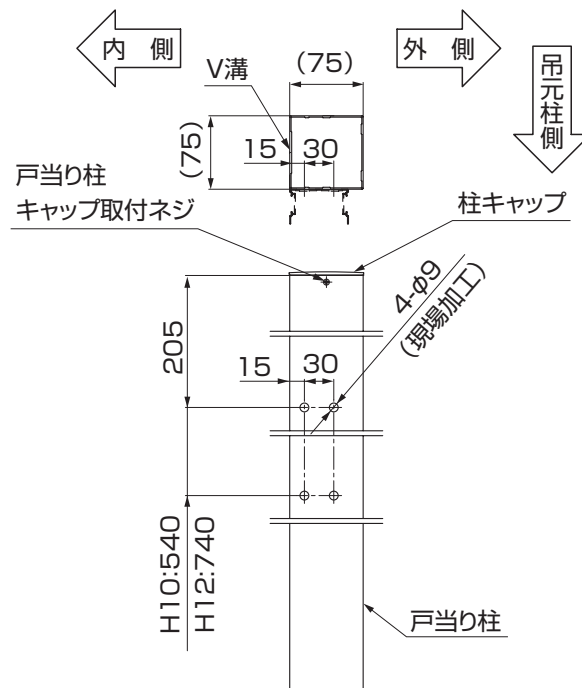
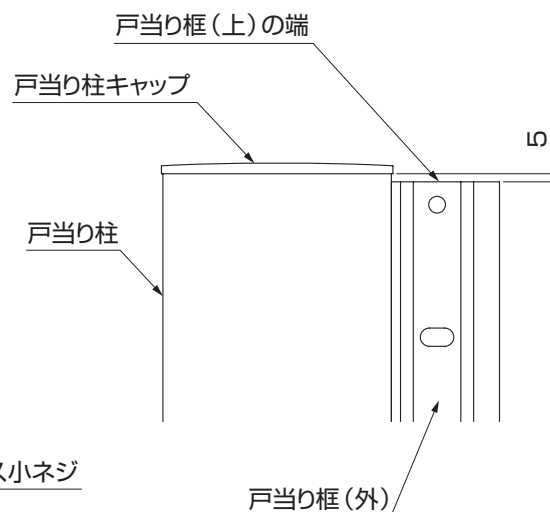
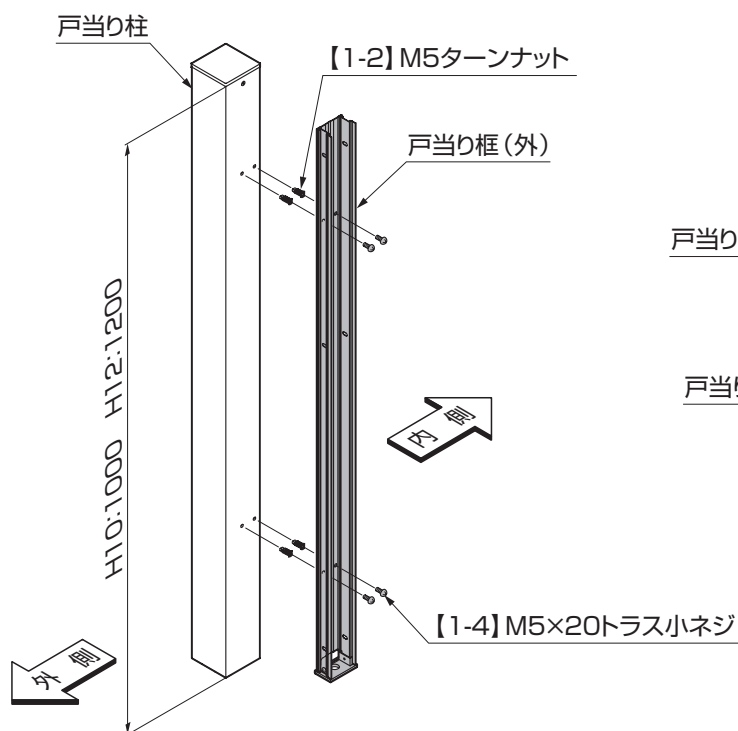


図7-2 外観左吊元の場合

①戸当り柱に穴加工をしてください。

(2) 戸当り框（外）の取付け

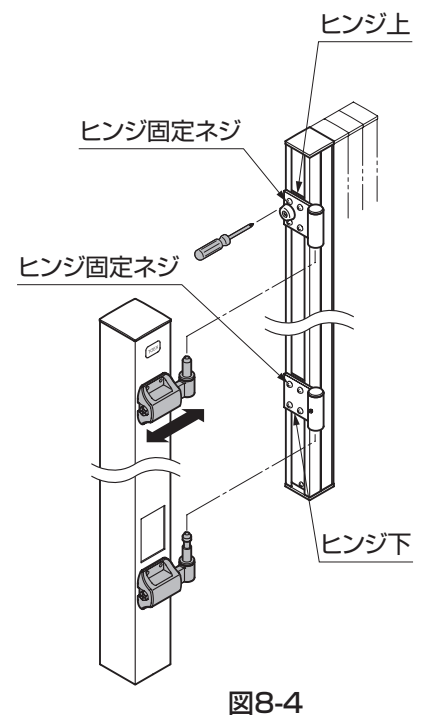
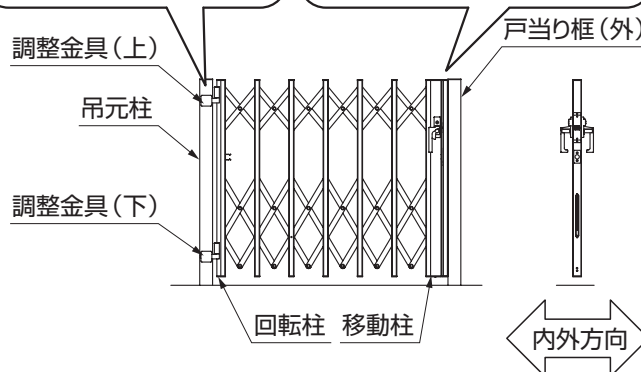
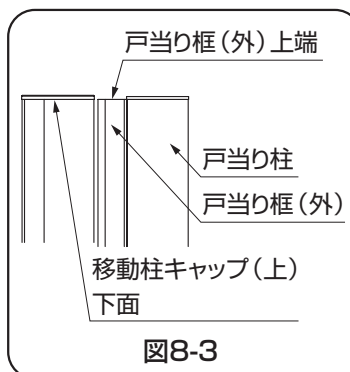
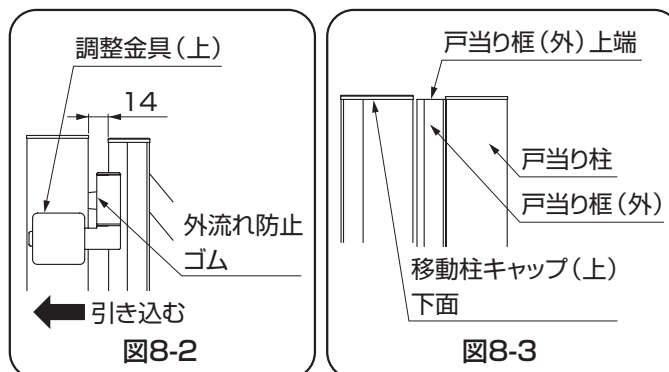
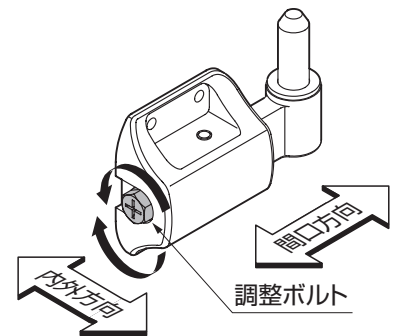
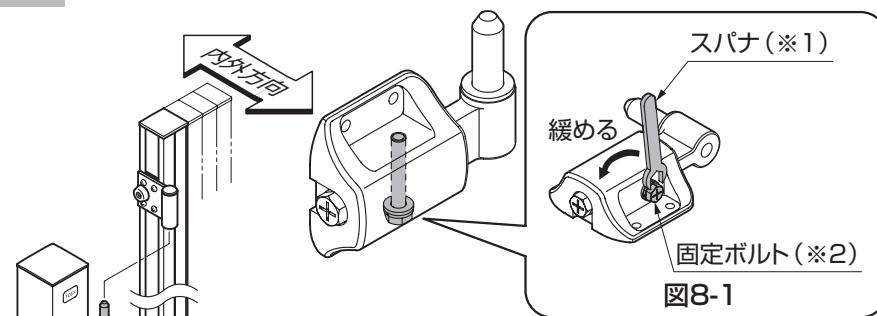


①戸当り柱に戸当り框(外)を【1-2】、【1-4】で取付けてください。

8. 本体の納まりの調整

※固定ボルト(※2)は必ず呼び10のスパナを使用してください。

8-1 調整金具での調整



- ①扉を戸当り柱側に伸ばしてください。
- ②調整金具(上)・調整金具(下)の固定ボルト(※2)を呼び10のスパナで緩めてください。(図8-1参照)

ポイント

- 固定ボルト(※2)を締めたままま間口寸法を調整すると固定ボルト(※2)が破損します。

- ③「調整ボルト」をまわして、調整金具(上)を引き込み、回転柱と柱のチリを14mmにしてください。(図8-2参照)
- ④調整金具(下)を間口方向に調整して移動柱と戸当り柱が平行になり、移動柱キャップ(上)の下面が戸当り枠(外)の上端に一致するようにしてください。

補足

- 移動柱キャップ(上)の下面と戸当り枠(外)の上端が合わないときや、ヒンジと調整金具間にすき間がある場合は、ヒンジ上・ヒンジ下の回転柱への取付位置を調整してください。(図8-3、図8-4参照)

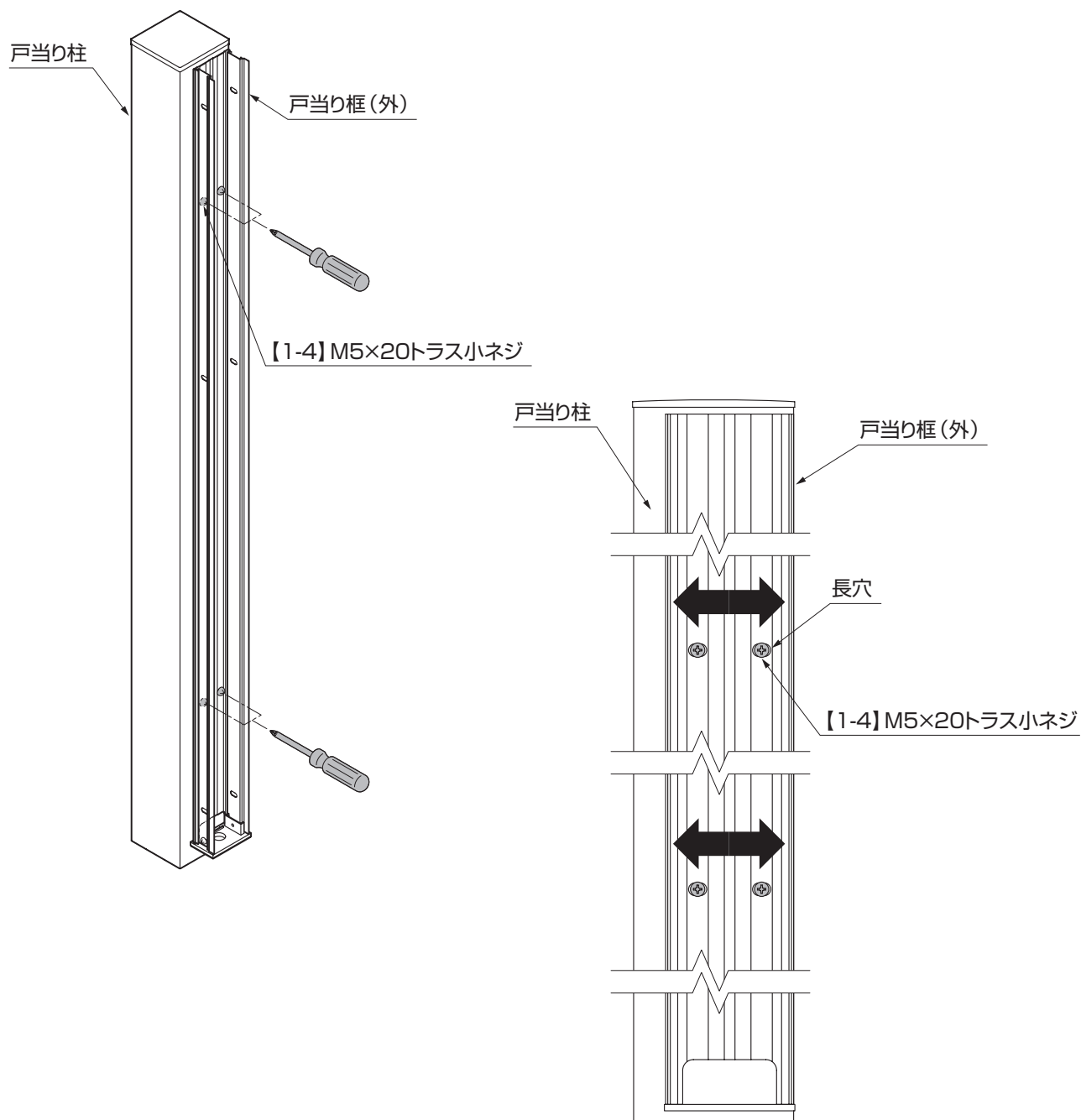
- ⑤内外方向に調整金具を動かし、移動柱と戸当り柱が平行になるようにしてください。
- ⑥調整金具(上)・調整金具(下)のヒンジ固定ネジを締めてください。(図8-4参照)

補足

- 構造上、吊元柱と回転柱が平行にならない場合があります。

8. つづき

8-2 戸当り框（外）の調整



- ①【1-4】を緩めてください。
- ②長穴の範囲で戸当り框(外)を動かし、移動柱と戸当り框(外)が平行になるようにしてください。
- ③【1-4】を固定してください。

ポイント

- 調整金具だけでは調整しきれない場合に行なってください。

9. 戸当り框の取付け

9-1 錠受けの取付け

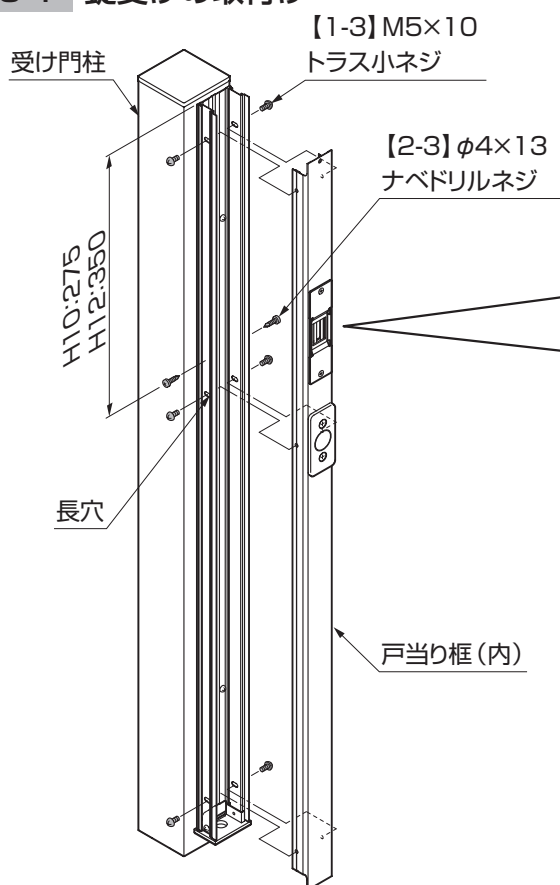


図9-1

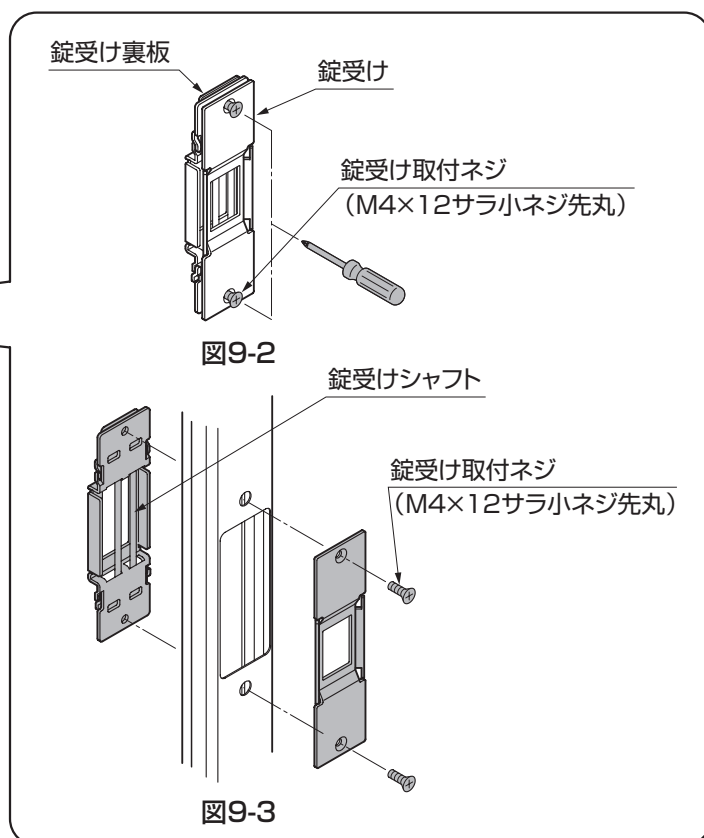


図9-2

図9-3

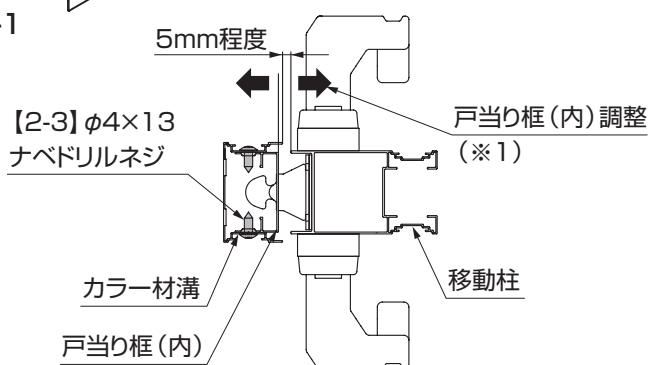


図9-4

- ① 錠受けに組付いているネジを外してください。(図9-2参照)
- ② ばらした錠受けで戸当り框 (内) を挟み、錠受けを取付ける穴に合わせて、①で外したネジで取付けてください。(図9-3参照)

ポイント

- 錠受け裏板が錠受けから外れないように手を添えて作業してください。
- 組付け時、錠受けシャフトに触れないでください。外れることがあります。

- ③ 錠受けを取付けた戸当り框 (内) を戸当り框 (外) に【1-3】で仮組みしてください。(図9-1参照)
- ④ 一度扉を閉め、チリ寸が5mm程度になり、錠がスムーズにかかるように戸当り框 (内) の位置を調整した後、【1-3】本締めしてください。(図9-4参照)
- ⑤ 更に、戸当り框 (外) のカラー材を入れる溝の中央に【2-3】を打ち、戸当り框 (内) を固定してください。(図9-1、図9-4参照)

9. つづき

9-2 カラー材の取付け

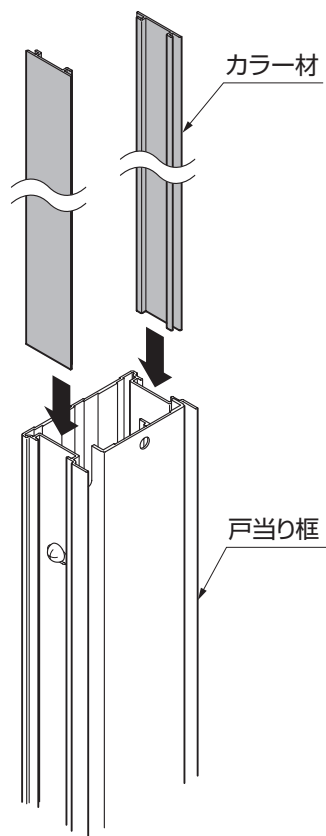


図9-5

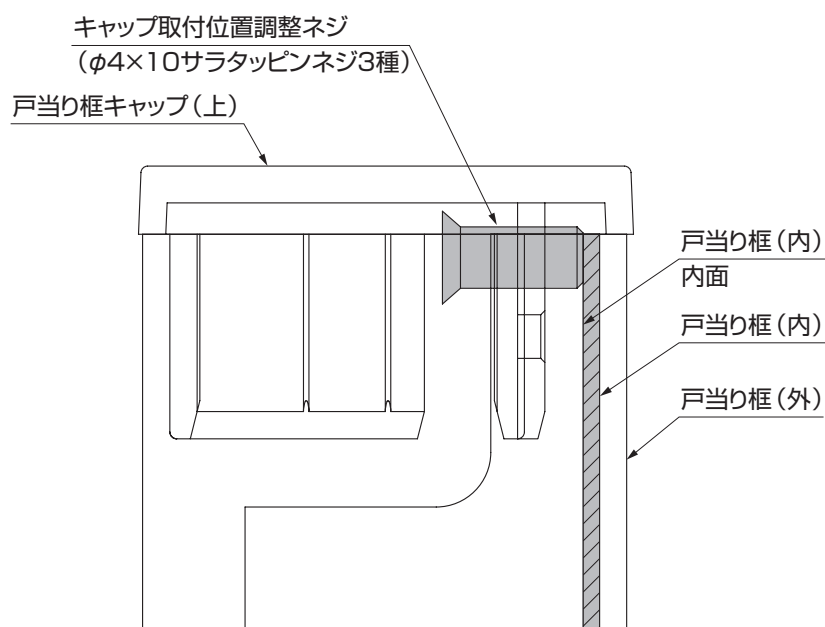


図9-6

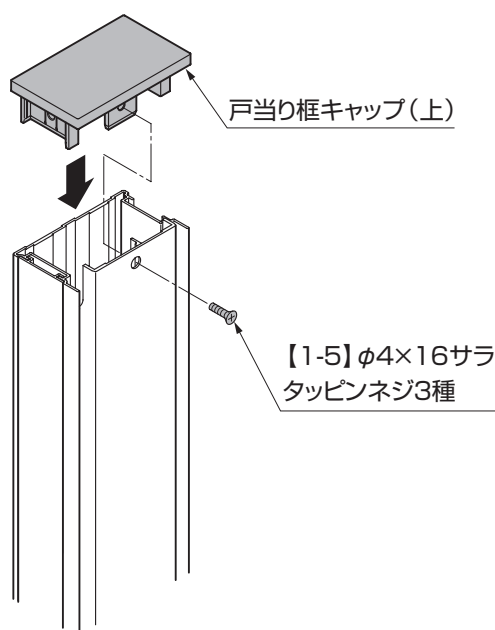


図9-7

- ①戸当り框にカラー材を差込んでください。(図9-5参照)
- ②戸当り框に戸当り框キャップ(上)をかぶせてください。(図9-7参照)
- ③戸当り框キャップ(上)を外し、戸当り框キャップ(上)に付いているキャップ取付位置調整ネジを戸当り框(内)の内面に触れるようにドライバーで調整してください。(図9-6参照)
- ④戸当り框に戸当り框キャップ(上)をかぶせて【1-5】で取付けてください。(図9-7参照)

10. 落とし棒受けの埋設

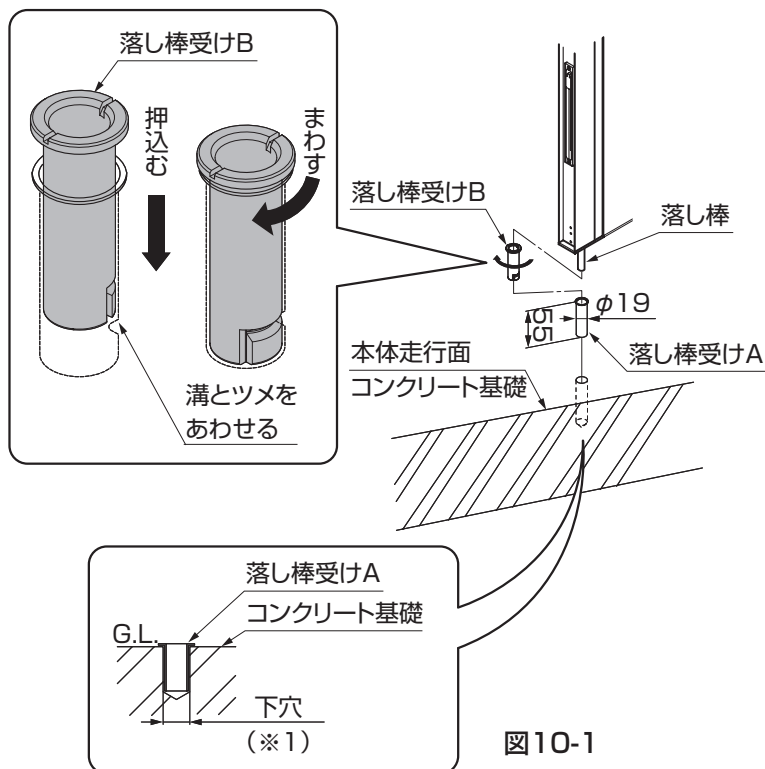


図10-1

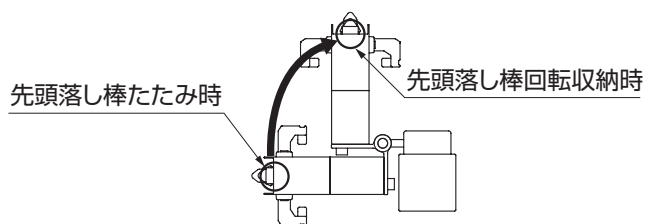


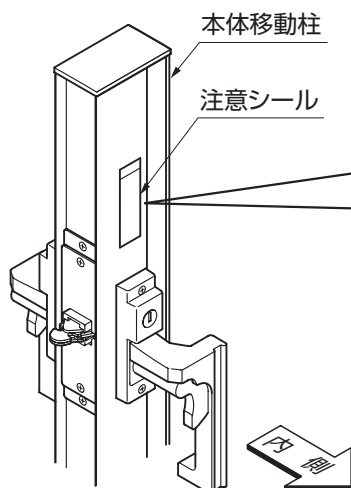
図10-2

- ① 落とし棒受けAをコンクリート基礎部に確実に固定してください。(図10-1参照)
- ② 落とし棒受けBを落とし棒受けAに落して回しながら挿入してください。(図10-1参照)

ポイント

- たたみ時と回転収納時の先頭落とし棒位置に落とし棒受けの下穴を施工してください。(図10-2参照)
- 落とし棒受けAは無理に叩き込むと変形し、落とし棒受けBが入らなくなるおそれがあります。
- 下穴をあける場合は、下穴径はφ19～φ20のコンクリートドリルで下穴を加工してください。(※1)
- 下穴が大きく、落とし棒受けAが固定されない場合は、屋外用コンクリート接着剤等で固定してください。

11. 注意シールの貼付け



注意

・扉で遊ばないようにご注意ください。
・開閉時には手や指を挟まないよう
取手を持って行ってください。
・動く部分へ手や指などを差し込まないで下さい。
・扉体が自走しないように必ず落とし棒を
下ろしてください。

- ① 本体移動柱の内側の目に入りやすい位置に注意シールを貼付けてください。

注意

- 注意シールは、施主様に安全に使用していただくために必要です。

